

<グロットについて>

ボートでシュノーケリング終了後、40分ほど車両移動してグロットに到着します。

グロットは北東部の端に位置し、沖側から見る事ができれば、断崖絶壁の地形であることが分かります。

その陸側の地形が陥没しており、コンクリートで整備された110段の階段を下りると、ため池のような場所があります。

ため池は海中で外洋につながっており、その外光が内側に光るように入るので、「青の洞窟」の様相を醸し出します。

外洋に出る穴は水深7mほどの下になるのでシュノーケリングでは外洋にはでることはしません。

階段を降り終わると、この、ため池の手前に到着します。これ以降の説明は上方から見下ろした想像をしていただきます。

ため池の中央より手前側に直径1.5m楕円形の大岩があります。

階段の位置とこの大岩の間がおおよそ10m弱あり、波が寄せている岩場です。

6mはガイドレール及びロープがあります。最後の4mは右側に張り出ているオーバーハングした岩があって、そのそばを通ります。

最後の50センチは波が通る道です。このタイミングをガイドが計り、それに従いながら歩いて渡ります。

ここが案内役の熟練度が問われるところであり、柔らかなサービス精神よりも安全を優先、自由度よりも制限させていただくところです。

この時点ですでにライフジャケットは装着していますので、もし足を滑らせても浮くことができます。

私の20年以上の案内経験では一人も落としたことはありません。

滑り始めた時に捕まえられる立ち位置を確保してから、歩行してもらっています。

この大岩に渡り、奥行き5mの正面に進みます。高さが2m強あります。通常はここに立ち、足から飛び込みます。

終了後、岩に上がる場所は左側に水深20センチくらいの机ほどの広さの場所からになります。

飛び降りるのは楽しみの一つですが、どうしても怖い方はこの上がり口から水に入ることもできます。

ただし、一方通行を逆行するようなことになりますので、時間待ちがでます。

また落差がない利点の反対に、あらぬところに流されないタイミングを計る必要があるため、多少時間がかかります。

入水後は、私の携行するボディボードに触れさせながら、綺麗なコースを誘導し、巡回します。他業者はこの装具の準備がありません。

終了時には、ガイドロープを利用して、岩場を上がります。

波を利用すること、膝をすりむかない手法をお伝えしています。

岩場に上がり再び階段側に戻る際には、足を屈伸したりして地上の筋力をもどしてもらいます。

遊泳中に無重力になるので、足がふわふわしているからです。

階段を上がる際は、あらかじめ伝えてある、心肺機能への負荷を減らす手法で歩行してもらいます。

■ 写真は以下をクリック！

<http://www.google.co.jp/search?q=%E3%82%B0%E3%83%AD%E3%83%83%E3%83%88&hl=ja&client=firefox-a&hs=Kh&rls=org.mozilla:ja:official&channel=fflb&prmd=imvns&tbm=isch&tbo=u&source=univ&sa=X&ei=d2nAT6njIKqg2gXK68IW&ved=0CHMQsAQ&biw=1366&bih=660>